

調査活動について

[総括]

今回、タクラマカン内部において調査活動をおこなったのは、ここが当時まであまり満足に現地調査の進んでいるとは言い難かったフィールドであった事と、なかなか日本人が内部まで入る機会が少ないということから、学生探検と言えどもできる限りの調査活動をやっておかなければ「もったいない」という気持ちが大きかったからである。我々には体系的な知識も、様々な事象を学術的に判断する能力も無いに等しい。しかし、研究者の方々の指導を受け、現地でサンプルやデータ収集などを行うことは我々にも十分出来るだろう。そう判断し、こういった今までの学生探検部の調査活動としては比較的珍しい方式を取ったのである。結果的には、満足の行く調査はあまり出来なかったのだが、それでもなお何らかの学術的貢献をする事が出来たと思う。専門家の方々に提供したそれらサンプル群は、閉ざされた学生探検部レベルの研究ではなく、広く一般の研究者の参考として、微小だが実際的なものとなると、固く信じるものである。

[調査概略]

調査は大きく分けて、「地理学的調査」と「生物学的調査」に別れる。

1. 地理学的調査：(目的) 砂漠化につながる砂漠生成理由解明の為の基本的データ集め
(内容) 毎日3回の風力・風向測定
約3時間おきの温度・湿度測定
幕営地ごとの土壌サンプル採集(表面土壌、30cm深度土壌)
水場などでの水サンプル採集及びEC/pH測定
(装備) 風力・風向測定器
自動温湿度計測器
エンベックス
折りたたみ式スコップ
サンプルビニール袋
サンプルプラスチック容器
電子水質調査計(EC/pH)
水温計
(担当) 野口
(顧問) 法政大学 小寺浩二
2. 生物学的調査：(目的) 当地で存在が確認されていない微生物“クマムシ”を発見する
(内容) 幕営地ごとに周辺の植物の付着物を採集し、ホルマリン固定する
(装備) ポリ瓶 100cc
ポリエチレン製駒込ベペット
ポリビーカー 100cc
ガラス製カンブル瓶 15~20cc
パラホルムアルデヒド粉末 10g
(担当) 香川、本多
(顧問) 東京女子医科大学 野田泰一

[調査結果]

1. 地理学的調査

10月3日(踏破開始6日目)に自動温湿度計測器が故障し、以後エンベックスという登山用の電子温度気圧計を使用する。この為、少々の誤差が生じる。また、電子水質調査計の調子が遠征を通して悪く、使用が出来なかった。その他はほぼ予定通り遂行する事ができた。現在(平成8年2月25日)、研究顧問に全サンプル及びデータは送付。分析待ちである。

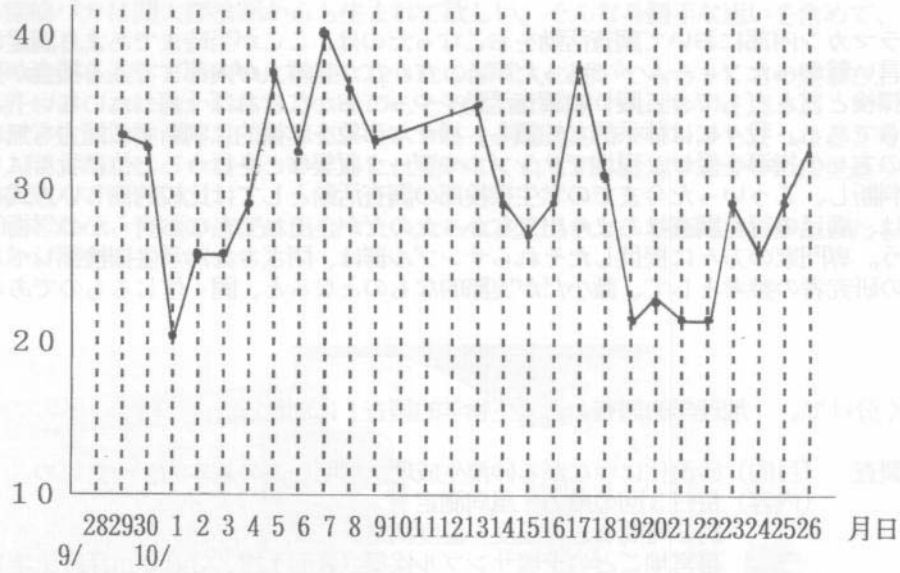
2. 生物学的調査

結局クマムシは発見できなかった。生物が発見されたのは、昆虫、ダニなど全く関係の無いありふれたもののみであった。これらは野田先生の知人である昆虫の研究者へ寄贈し、何らかの参考としてもらうつもりである。

[参考]

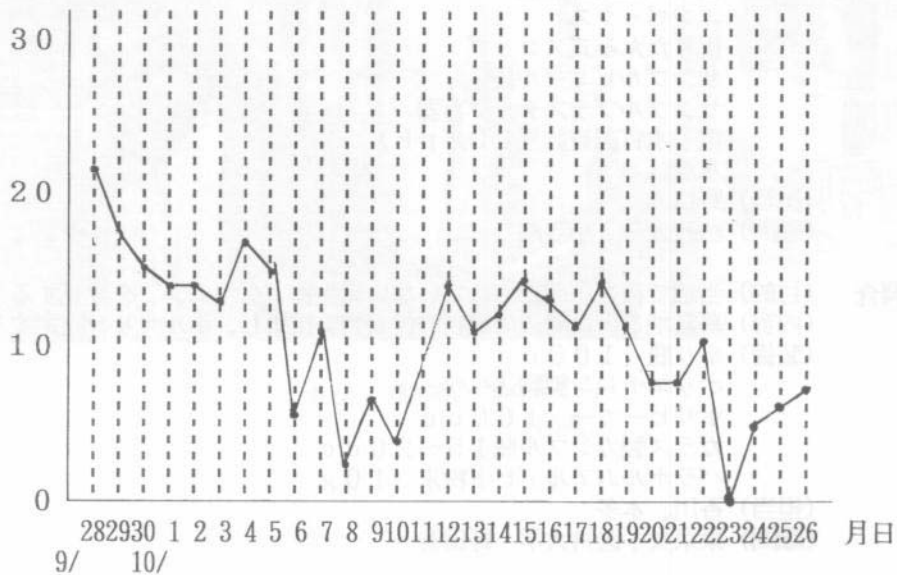
(1日の最高気温グラフ)

温度

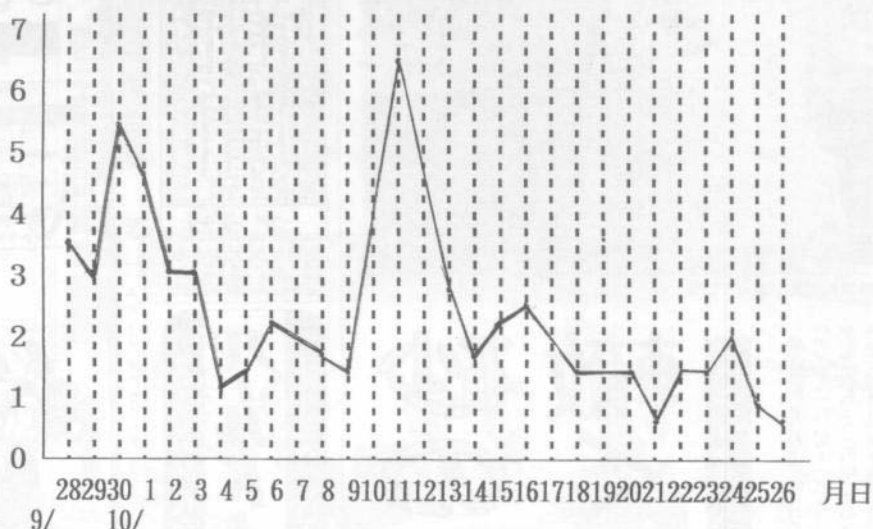


(1日の最低気温グラフ)

温度



(1日の最高風力グラフ)



海外遠征派遣は甘くない

この計画に係わり始めたのは94年の夏頃だったろうか。現在でもそうであるが私はOB会組織、探検委員の1人。現役部員の企画や計画を経験者の立場から、客観的な目線に立ってアドバイスや指導していく立場にある。それだけに学生に対して、厳しい指摘をする事が度々ある。

関大探検部の伝統というか、もっともやっかいな点は、探検委員会の承認を受けないと企画にGOサインが出ないシステムになっている点だ。その代わりといっってはなんだけど、何か不慮の事態が起こった時には、OB会組織を挙げて救難救助にあたる規約になっている。平たく言えばOB会組織からのサポートが得られる保険制度のようなものだ。もちろん掛け金は無い。しかし、その代償としてOBの意見に学生たちは大いに揺さぶられ、戸惑う。そして、OBから提示されたハードルをクリアしていかなければ、最終企画は頓挫してしまう。だからといってOBが偉いわけでも、力があるわけでもないのだ。一番大切な点は論じることにある。そのための一つの手段、安全弁にOB会がなっているわけだ。また、その安全弁は社会に出て長年の知恵と経験があるので、社会経験の浅い学生たちの知識・知恵ではなかなか対抗ができない。まったく当然のことである。

このような制度をとっている探検部は全国どこにもなく、唯一関大だけがとっている独自のシステムであろうと思う。

しかしながら、学生たちからすれば、事故を未然に回避することもさながら、それ以前に自分の考えた企画を実行できるかどうかのほうがもちろん大切。その企画が探検か冒険かの議論は別として、企画を審議するOB側としては安全性を重視する機能上、どうしても保守的になってしまう。ここに他のクラブ活動に比べ、大きな違いが存在する。

今までに無いユニークな探検、これまで他人がなしえなかった探検、そんなことを実現しようとすればするほど、今まで彼らが思いもよらなかった問題にぶちあたるであろう。

そのことを理解した上で、これからも新たな計画を練って欲しい。
(松原)